

## 論壇

## 沖縄県「子どものこころ専門医」研修

琉球大学病院 精神科神経科  
石橋 孝 勇

はじめに

私自身の話からさせていただきます。

私は、琉球大学の医学生の頃から、発達障害分野の専門医になること志望していました。しかし、誰に聞いても、どのような研修を積んでいけば専門医になれるか、明確な答えが得られません。自分で調べても、「とりあえず小児科専門医を取得する」くらいしか情報がありませんでした。

そこで、まず那覇市立病院で小児科後期研修を行いました。しかし、その後どうすればいいかわかりません。そんなときに、学生時代の臨床実習で、琉球大学精神科神経科の児童思春期外来を思い出し、精神科後期研修をすることにしました。児童思春期外来を務めさせていただくことができ、無事、「子どものこころ」を専門とすることができました。

医学生、小児科医、精神科医と経る中で、同期や後輩と「子どものこころ」を専門にするには、どうしたらいいのかと話し合いました。小児科と精神科の両方で研修をするのは、年月がかかります。小児科ではNICUや救命医療ができるか、精神科では成人や高齢者の患者様を診療できるかなど、各科の適性もあります。他の都道府県で専門研修を受ける方法もありますが、私の周りで「子どものこころ」研修を志望される方には、女性医師が多く、研修とご家族との生活をどう両立するかという悩みも抱えることがあり、自由に進路を選択できるわけではありませんでした。

## 1. 「子どものこころ専門医」とは

そんな折、2015年、子どものこころ専門医機構が「子どものこころ専門医」の認定試験を開始しました。機構のHPから引用しますと、“「子どものこ

ろ専門医」は、小児精神医学、小児心身医学を基礎として、子どもの精神疾患、神経発達症（発達障害）、心身症、不登校、虐待など、子どものこころの諸問題に対応する専門医です。～中略～歴史的背景に鑑み、子どものこころ専門医は、小児科専門医と精神科専門医の双方を基盤領域とするサブスペシャリティ専門医として位置づけられています。”

(<https://kks-kokoro.jp/general/index> (2024年2月20日アクセス))

当時は、日本小児心身医学会、日本小児精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本思春期青年期精神医学会の4学会の認定医等が受験資格をもちました。

## 2. 「子どものこころ専門医」研修プログラム

2022年に大きな転機を迎えます。全国に85の「子どものこころ専門医」研修プログラムが立ち上がりました。プログラム内容は、合計432日間の陪席・診療で一定症例数の経験を積むことです。

沖縄県では、下記5機関合同でプログラムを行っています。

- ・精神科系 琉球病院（基幹病院）  
琉球大学病院 精神科神経科
- ・小児科系 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター  
発達神経クリニック プロップ  
社会医療法人へいあん 発達相談クリニック ぞえ〜る

総合病院、専門病院、開業医、複合施設など多様な臨床現場を体験できる機関がそろっています。小児科・精神科いずれかの後期研修を終えると、本研修に応募できます。本研修を修了し、それまでに小

児科専門医・精神科専門医のいずれかを取得すると、専門医試験を受験できます。

この研修の特色は、合計432日間の研修というところ です。

詳しく解説すると、1週間当たり最大3日間を実習としてカウントできます。

- ・ 週3日：1か月で12日： 3年間で432日間
- ・ 週1日でも認められるため、その場合、3か月で12日、 9年間で432日間という選択もできます。つまり、現職に勤めながら、研修を行うことができます。

これまでに研修生は、下記の通りの応募があります。

- ・ 2022年 小児科医 1 名、精神科医 2 名
  - ・ 2023年 小児科医 2 名、精神科医 1 名
  - ・ 2024年 小児科医 3 名、精神科医 1 名
- 大学病院、総合病院、精神科専門病院に在籍され

ており、沖縄本島北部から南部だけでなく、離島からも研修されています。

従来、小児科・精神科はもちろん、あらゆる科の医師が各々の専門分野の中で、子どものころに関わる診療に携わってきました。本研修の目的は、子どものころ診療を専門医に集約することではありません。子どものころ専門医研修を受ける医師が、各地域の医療機関に広く配置されることで、治療に悩む症例を連携しながら対応することができ、各地域の診療力が向上されることを目指しています。

おわりに

全国でも沖縄県は子どもの数が多いと言われます。子どもたちが幸せに過ごせるように手助けするのが、子どものころ専門医の役割です。研修修了までに9年かかる方もいる長い道のりではありますが、患者様の紹介など、少しずつ皆様と関わる機会が増えていきます。温かい目で見守っていただくと幸いです。